

実践
コラム
力試し
現

毎週火曜掲載

育に新聞を



⑦

新聞作りで書く力育む

日本新聞協会NIEアドバイザー 坂本 謙

小学4年生の国語科に「みんなで作ろう」(東京書籍)という単元がある。小学校の国語科では、「出来事を伝える文章」や「意見文」などについて指導する。新聞にも、出来事を伝える文章の一般記事や意見文に当たる論説や投書などもある。児童の書く力を高めるために、この単元を通して出来事を伝える文章と意見文をそれぞれ意識させて、新聞を書かせることにした。

児童が主体的に学習していくために、単元の導入を工夫した。それは、教師が二つの新聞を作成して、児童に配布して見比べさせたことである。一つは手本とさせた新聞で、もう一方はそうでない新聞

である。手本の方には、「いつ」「どこで」「だれが」などいわゆる5W1Hを踏まえて出来事が書かれており、インタビュールしたことが「どうである」など伝聞で書かれているなどの工夫がある。また、意見文では、「はじめ」「中」「終わり」の三つの構成を明確にして書かれ、特に「終わり」では自分の考えをはっきり述べた文章となっている。

二つの新聞を見比べて、どちらの新聞が良く、そして良い方には具体的にどんな工夫があるかという課題に対して、児童は興味を持って考え、話し合いを通して文章を分かりやすく書くための工夫について気付くことができた。

この授業の後、グループで新聞作りに取り組んだ。どのグループも、出来事を伝える文章と意見文を書く上で大切



自作教材である二つの新聞を拡大して、児童に考えさせている国語科の授業

なことを意識しながら、文章を書くことができた。

新聞作りで身に付けたい力を明確にして指導することによって、児童の書く力を大きく高めることができるのではないかと考える。

さかもと・けんさん 宮城県図書館資料奉仕部児童・視聴覚班主幹。2017年から日本新聞協会NIEアドバイザー。宮城県NIE推進委員会運営委員。大河原町大河原小、柴田町船岡小でNIE担当教員。いわき市出身、名取市在住。

NIEを実践している教員やNIEアドバイザーに、自分だけの方法を公開してもらいます。NIEがぐっと身近になります。各月第一週に掲載します。次回は12月4日。